

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】令和 4 年 2 月 24 日(2022.2.24)

【公開番号】特開 2020-172407(P2020-172407A)

【公開日】令和 2 年 10 月 22 日(2020.10.22)

【年通号数】公開・登録公報 2020-043

【出願番号】特願 2019-75036(P2019-75036)

【国際特許分類】

C 0 1 G 41/00(2006.01)

C 0 1 G 41/02(2006.01)

C 0 8 L 69/00(2006.01)

C 0 8 K 3/22(2006.01)

C 0 8 K 5/25(2006.01)

C 0 8 L 101/00(2006.01)

10

【F I】

C 0 1 G 41/00 A

C 0 1 G 41/02

C 0 8 L 69/00

C 0 8 K 3/22

C 0 8 K 5/25

C 0 8 L 101/00

20

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 2 月 15 日(2022.2.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0031】

添加される M 元素の添加量  $x$  は、 $x/y$  の値において 0.001 以上 1 以下が好ましく、さらには、六方晶の結晶構造から理論的に算出される  $x/y$  の値 0.33 付近が好ましい。

一方、酸素の存在量  $Z$  は、 $z/y$  の値で 2.0 以上 3.0 以下が好ましい。典型的な例としては  $Cs_{0.33}WO_3$ 、 $Rb_{0.33}WO_3$ 、 $K_{0.33}WO_3$ 、 $Ba_{0.33}WO_3$ 、 $Cs_{0.03}Rb_{0.30}WO_3$  等を挙げることが出来る。尤も、 $x$ 、 $y$ 、 $z$  の値が上述の範囲に収まるものであれば、有用な電磁波吸収特性を得ることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0090

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0090】

[ 実施例 8 ]

IRGANOX 1010 の代わりに、リン系酸化防止剤として構造式(6)に示すアデカスタブ 2112(登録商標)(株式会社 ADEKA 製)を 150 重量部用いた以外は、実施例 7 と同様にして、実施例 8 に係る分散液と赤外線吸収シートとを得た。

得られた実施例 8 に係る分散液中の吸収微粒子の結晶子径と、赤外線吸収シートの光学特性とを、実施例 1 と同様に測定、評価した。当該実施例 8 に係る製造条件と評価結果とを

50

、表 1 に記載する。

この結果より、実施例 8 に係る赤外線吸収シートは 1 2 0 という高温下においても、優れた熱線遮蔽特性を安定的に発揮することが判明した。

10

20

30

40

50